

鉾立地区 地域説明会 会議録（概要）

- 日 時 令和8年7月1日（水）19：00～20：00
- 場 所 東児公民館 2階 多目的室
- 参加者 地域住人 7名
- 傍聴者 （オブザーバー）市議会議員4名、報道関係者 0名

1 再編準備委員会の設置等について

事務局 資料に基づき説明

2 質疑・応答

住人 A： これは誰に向けて開催している説明会なのでしょうか。また、これは小学校や中学校を統合するという話なのか教えてください。

事務局： まず、説明会は各小学校区のお住まいの保護者の皆様に説明した後、地域コミュニティの方を対象に説明していくという形で開催しております。これまで中学校の再編について説明して参りましたが、今回は山田・後閑・胸上・鉾立の小学校の再編になります。今回は一通り保護者の説明会が終わりましたので、地域住人の方を対象とした説明会を順次開催させていただいております。

住人 B： 再利用という話がありましたが、これはどこの何を再利用する話でしょうか。

事務局： 今回の再編で閉校になる学校がありますので、その学校の建物や運動場のことです。先程説明したのは市内全体の考えですが、実際に閉校が決まりましたら、それぞれの学校の活用方法を決めていきたいと考えております。

住人 B： 鉾立小学校は休校してからずいぶん時間が経ちましたが、どういう使い方をするのででしょうか。

事務局： 鉾立小学校につきましては、現在は閉校ではなく休校という扱いのため、まだ具体的な検討には入っておりません。実際に閉校が決まりましたら、地域に出向き、地域の方のお考えやご希望を伺いながら決めていくこととなります。

住人 B： 以前、鉾立小学校の跡地利用のお話をした際に、耐震の問題や土砂災害の危険区域にあるため使えないというお話がありました。先日の火事の時も、山際に住む方が避難場所として使わせてほしいとお願いしたそうですが、無理だと言われたと聞いています。では、いったい何に使えるのだろうかと思います。私たちが案を出したところで、本当に通るのでしょうか。これもダメ、あれもダメとなって、結局そのまま放置されてしまうのではないかと危惧しています。その点について、きちんとどうするのかを決めていただきたいです。また、説明会にこれだけしか人が集まらないということは、それだけ関心が低いということです。いつも参加者が少なく、これでは意味がないのではないのでしょうか。

- 事務局： 跡地利用に関しましては、地域の意向を伺うヒアリングの場を設けますが、そこでもいただいたご意見等がすべて必ず実現できるというわけではございませんし、耐震化や土砂災害の問題など、学校ごとにそれぞれ様々な課題があるかと思います。そういった点も含めて最終的に決定してますが、まずは地域の方がどのような活用を希望されているのかを伺い、市としても様々な検討を行います。また、民間での活用についても、鉾立小学校は市街化調整区域に該当するため制限はありますが、民間からのアイデアもいただきながら、制限のある中でもどのように使えるかしっかりと考えてまいります。
- 住人 B： 使用していないと建物の傷みが早いので、かなりの早さで進めないと使えなくなってしまうと思います。
- 事務局： 閉校決定後にはなりますが、早期に進められるようしっかりと取り組んでまいります。
- 住人 C： 跡地利用が全く進む様子がないのは、市街化調整区域であることが一番引っかかっているのだと思います。民間が使うとしても、市街化調整区域という制限がある以上、実質的に何もできないのと同じです。少子化で子どもも生まれず、人口も学校も増えることはなく、衰退するだけで終わってしまうのではないかと思います。閉校後に調整区域の活用を民間に持ちかけても、調整区域では何もできませんと言われてしまえばそれまでで、何のアイデアも出ないと思います。調整区域の扱いについて、どうお考えなのか聞かせてください。
- 事務局： 市街化調整区域については様々な制限がかかるため、民間が活用しようとすると用途がかなり限られてくるのは事実です。そうした中で、学校が閉校になった場合には、こうした点も含めて考える必要がありますので、調整区域を担当する所管課の職員も交えて、しっかりと検討してまいります。民間での活用が難しくても、例えば公共施設として使う方法や、公共に限らず地域の皆様にご活用いただくことも考えられます。制限があるため、大規模な商業施設が進出するようなことはないと思いますが、限られた条件の中でしっかりと考えてまいります。
- また、学校が遠くなることで、保護者の皆様が最も心配されるのは通学の負担が大きくなることだと思います。そうした面についても皆様のご意見をしっかりと伺いながら、教育委員会としてスクールバスの運行などを行い、学校が遠くなることへの不安を一つ一つ解消できるよう取り組んでまいります。学校がなくなっても地域の魅力が損なわれることのないよう、しっかりと取り組んでまいります。
- 住人 D： 新しい学校ができるにあたって一番心配しているのは、1クラスの人数です。資料によると、令和10年度に4つの学区が統合して1つになりますけど、その時点の各学年の人数が何人なのか、教えてください。
- 事務局： 今、正確なデータを確認しておりますので、少々お時間をいただいてよろし

いでしょうか。

住人 D： 正確な数は後で教えていただくとして、少なくとも 1 クラスの人数は増えると思います。昔は 2 クラスが良いというお話もありました。仮に 1 クラス 35 人になったとしたら、これまで少人数で過ごしていた子どもたちが突然大人数学級になり、どのようなことが起きるか色々と想像してしまいます。一人一人を大事にすることや個別最適な学びなどと言われますが、これまで 10 人程度を 1 人の先生が見ていた環境から、30 人以上を見なければならなくなったとき、本当に個別最適な学びができるのでしょうか。いじめが目に留まらないということが起こらないかとすごく心配しています。教員の人数を増やすといったような配慮はあるのでしょうか。また、特別支援学級も 8 人で 1 クラスと聞いていますが、それを 4 人 1 クラスにはできないのでしょうか。市独自で、市の予算でできるものならしていただきたいと思います。移行期であればなおさらだと思います。

事務局： 児童が増えた場合の教育についてお話しします。これからの時代は、いろいろな人と話し合い、折り合いをつけ、新しい考え方を生み出していく力が本当に必要な時代になってきています。多様な人と関わりながら協働的な学びを行い、自分の考えを深めたり、仲間と一緒に新しい価値観を生み出していくことをまずは目指しております。

資料にある個別最適な学びという言葉ですが、これは一人ひとりに先生が手厚く手を尽くすという意味ではなく、国が示している主体的な学びを表しています。これまでは先生が勉強の内容や方法を提示していましたが、今の子どもたちは、目標を立てる段階から自分たちで発想し、決めていきます。やり方や使う道具についても自分で決めていき、一人ひとりの興味・関心や理解度に応じて学びを進めていきます。これが個別最適な学びですので、大人数でも少人数でも実現できるものだと考えています。

また、人数が多くなることでいじめなどの問題が起こるのではないかとというご心配についてですが、私どもは子どもたちの力を信じています。当事者は子どもたち自身ですので、どうすれば他者と仲良くなれるか、喧嘩したらどう仲直りするかは、子どもたち自身が身につけていくべき力です。もちろん、悩んだり解決方法に困ったりしている時にはしっかりとサポートをしながら、子どもたちの持つ力を育てていくことが教育の大前提であると考えております。

さらに、教員が増えないのではないかとというご質問についてですが、現在、胸上小学校には加配という形で教員が増えております。今後は、サポートスタッフの配置などについても検討していきたいと考えております。

住人 D： おっしゃることはよくわかりますが、やはり大人数で見るよりも、一人一人に目を配ることが大切だと思います。一人一人の目標を作るにしても、最終的に支えるのは「個」です。3 人では難しいかもしれませんが、35 人より

は 24 人の方が、一人ひとりによく目が行き届いて、十分に支えられると思います。だからこそ、教員を増やすなどの配置が必要ではないかと思うので、ぜひお願いしたいと思います。特に移行期は、少人数だった子どもたちが突然 30 人学級に入るわけですから、一人一人に目が行き届かないと大変なことになると思います。

事務局： さきほどの人数ですが、推計値としてトータルの人数は 161 人になります。学年ごとに申し上げますと、1 年生が 21 人、2 年生が 25 人、3 年生が 29 人、4 年生が 24 人、5 年生が 30 人、6 年生が 32 人になる見込みとなっております。

住人 D： 支援学級は何人でしょう。

事務局： 支援学級はその時々によって変わるので、そこについては推計値がございません。

住人 D： 特に 6 年生は 32 人ですので、後閑小学校の子どもが今何人いるかはわかりませんが、その子たちが突然 32 人のクラスに入ったらどうなるか。その辺りを少し想像していただいて、できるだけご配慮いただけたらと思います。個を支えなければ良いクラスはできませんし、個を支えなければ、個別最適の学びも協働的な学びも、深い学びもできないと私は思うのですが、いかがでしょうか。

教育長： おっしゃる通りだと思います。

住人 D： 個が大切にされるような教育を今後よろしくお願いします。

住人 E： 現在、玉野市内の小学校にボランティアとしてお邪魔させていただくことがあるのですが、私が子どもだった頃と今の子どもたちの様子が全然違います。先ほどの個を大切にせる教育や理想のお話はとても良いなと思いながらお聞きしていましたが、目標に沿った授業についてもついていけない子と、そうでない子の差が大きいと感じています。

また、寂しそうな子が多いなととても感じます。幼少期、小学校低学年くらいまでは、温かい環境で安定した学びがあることで、充実した育ちにつながるのだと思います。切磋琢磨は中学生くらいが望ましいのではないのでしょうか。私たちは身近な地域として、バックアップしたいと思っています。どう関わって子どもの成長を見守り、手を差し伸べたらいいのか、一生懸命考えています。理想は理想で良いのですが、理想と現実の大きなギャップをどう解消したらいいのか悩んでいるところです。

事務局： 貴重なご意見をありがとうございます。不登校の問題として捉えさせていただきますと、本市としても、不登校は重要な課題であると認識しております。学校の外にも不登校対策の施設を設けたり、対応できる人材を配置したりといった取り組みを行っております。また、現在では学校の中にも別室登校ができる場を設け、そうした場を一時的に活用していただきながら、子どもたちが元気を取り戻して教室に戻っていくという取り組みも功を奏し、不登校

の数としては少しずつ減少していると捉えております。ただ、不登校の背景は様々ですので、これをすれば効果が出ると一概に言えるものではありません。お一人おひとりの事情に合わせて、教育を展開しているところです。また、安心・安全な学校であることも当然大切ですが、やはり一番は子どもたちが学校は楽しいところだと思えるようにすることだと考えています。楽しい学校づくりは、これまでも取り組んでまいりましたし、これからも念頭に置いて対応してまいります。今いただいたご意見への十分なお答えにはなっていないかもしれませんが、今後もそうした教育を目指していきたいと考えております。

住人 F： 今、不登校のお話が出ましたが、現在、胸上・山田・後閑小学校で不登校の児童は何人いて、職員の休職者は何人いるのでしょうか。また、鉾立小学校から通っている子の中に不登校の子はいるのでしょうか。

事務局： 現在、教職員の休職者はおりません。不登校の数につきましては、個別の学校ごとの数字は現在手元に持ち合わせておりませんが、胸上小学校にも一定数いる状況です。

市全体の傾向としては、今年度は不登校傾向の児童が減少しており、我々としても良い傾向だと捉えております。なお、該当する人数が少ないため、具体的な数字をお伝えすると個人が特定される恐れがあるため、個別の数字についてはお伝えすることは難しい状況です。

住人 F： 今日の説明会をもって統廃合が決定するのでしょうか。

事務局： これをもって決定するというわけではございません。やはり、いろいろな方のご意見を伺わなければならないと考えております。これまで各小学校の保護者の皆様には複数回にわたって説明会を開催させていただきました。地域の皆様にもこうした説明の場を設けさせていただき、本日はアンケートも実施させていただいております。こうした全体を見させていただく中で、一定程度のご理解をいただけたと教育委員会として判断できた場合には、次のステップに進めてまいりたいと考えております。

住人 F： 再編計画についてですが、この計画が今後変更されることはあり得るのでしょうか。いろいろな地区で様々な意見が出て、それによって変更せざるを得ないといったこともあるのでしょうか。それとも、たとえ 100% 反対であっても、この計画のまま進むのでしょうか。

事務局： 教育委員会としては、今の計画内容をもとに再編を進めていきたいとは考えております。保護者や地域の皆様に丁寧な説明をさせていただきながら進めていきたいと考えておりますが、地域の反対の声が大多数を占める中で、半ば強引に進めるということはなかなか難しいと考えております。

住人 F： 鉾立小学校は耐震化の問題も含め、何年も不公平な扱いを受けてきたと感じています。今は鉾立小学校の子どもたちが胸上小学校に加わって元気に通っており、それは良いことだと思います。バスを購入して通学しているわ

けですが、これは鉾立小学校の安全が確保できないということで休校という手段をとったわけです。

ただ、休校の扱いというのが気になります。地域の人がある程度利用したりもするのですが、特別教室なども下水がつながっていないといった状況です。校舎については耐震化もできていないため、これを地域の人を使うといっても、地域の人なら耐震化ができていなくてもいいのかという話になります。教育委員会で対応できないのですから、市の企画担当の方でも耐震化ができるとは思えません。以前はここを残す方向で進んでいたと思うのですが、その辺りが置き去りにされています。もし再編となった場合は、鉾立小学校の耐震化まで考えていただけたらと思います。

住人 G： 昔であれば子どもを増やそうという機運がありましたが、今となっては衰退していくばかりです。再編案が出ているということは、市がそういう方針なのだと受け止めています。

私の周りには、県外に出て子どもを産んだ人が結構います。県内に結構帰ってきていますが、やはり学校がなければ地元には住みません。この市は衰退していくように仕向けられているような気がしてしまいます。みんなで盛り上げようという姿勢が感じられないので、私は再編について賛成でも反対でもありません。

学校を一つにして遠くから通うとなると、子どものことが心配です。近くに学校があれば地元に戻ってきますが、学校がないのなら地元に戻る必要があります。

事務局： 地元に戻ってきたいと思っても、魅力が足りないとか、学校が遠いといった理由で戻りにくいというお話だと思います。こちらの地域は番田芋やスイートピーといった魅力のある地域だと思いますので、そういった特産品などもしっかりアピールしていきたいと考えています。

住人 G： 玉野高校でそういった特産品をすごく打ち出していて、お笑い芸人の方とセッションしてマップを作りましたが、マップを作ってそれで終わり、そこから先の進歩がなく、中途半端に終わらせてしまうのが現状です。

また、子どもを連れて帰ってくるにしても、親元にも学校がないため、岡山には戻ってくるけれども、玉野以外に住むケースが多いです。

事務局： 外部への宣伝については、市役所でも数年前からやってまして、今後もしっかり市外の人に玉野市の魅力をアピールしたり、単にやるだけではなく、実際に選んでいただける形につなげなければ意味がありませんので、しっかりと考えていかなければならないと考えております。

また、子どもさんが帰ってきて近くにも学校がないから心配だというお話がありましたが、学校から少し離れていても安全に通えるようスクールバスをしっかりと準備し、学校へ通うのに心配のないような地域になるように努めていきます。

住人 G： 朝、スクールバスがバスセンターから鉾立を回って胸上小学校で降ろし、そのまま戻りますが、これはものすごく無駄だと思います。教育委員会には関係ないことかもしれませんが、例えば、空いた時間で、買い物に行けない人をスーパーに連れて行ってあげるとか、いろいろなやり方で無駄をなくさないといけないと思います。

スクールバスの運用費に年間 2,500 万円かかると聞いた覚えがあるのですが、これを利用者の頭数で割っていけば、一人あたりものすごい金額を払っていることになります。

事務局： その点については市として今後どうするのか考えないといけない課題です。

住人 G： 無駄がないよう、買い物や移動手段に困っている人々を支援するような形にしていきたいと思います。

事務局： 今後、再編を進めていくにあたっては、小学校であれば 2km という一つの目安がある中で、スクールバスも段階的に購入していく計画になっております。このバスの空き時間をどのように活用していくのかというのは、重要な課題です。貴重な税金で購入しているバスですので、所管課の計画の中にもスクールバスの利活用をしっかりと位置づけ、そうした課題を今後解決し、前向きに利活用を考えていきたいと思っております。

住人 D： 資料に、クラスの人数増加に伴う課題とその解決策を追記してください。通学の安全確保はもちろん重要ですが、そればかりが議論され、人数が増えることで教員の目が行き届きにくくなるという懸念が、いつもうやむやにされていると感じます。資料に明記することで、今後もこの問題を忘れずに議論できるはずです。

また、先ほど各学年の人数を即答いただけなかったことから、山田小学校や胸上小学校に向けた資料には、あらかじめクラスの想定人数を記載しておくべきだと思います。ぜひ資料への反映をお願いいたします。

住民 H： 不登校のことが、心配です。岡山市では不登校の生徒が何人いるかアンケート調査をするという記事が最近出ていたように思います。いじめもとてもの気になることですので、一人でもそういった生徒さんが減少するようにお願いしたいと思います。

学校づくりについてですが、人は楽しいところに集まっていくと思うので、頑張るというよりも楽しいという気持ちで自然と足が向くような、そんな学校づくりをお願いしたいと思います。

事務局： それでは最後に教育長の方から一言ご挨拶申し上げます。

教育長： 本日は地域の皆様に貴重なご意見いただきました。地域の皆様が児童を思う気持ちであったり、学校を思う気持ち、これは誠実に受け止めているつもりであります。

しかしながら、児童数が今後も減少傾向にある中で、全ての学校を残していくというのは非常に厳しい面があります。そういった中で、学校規模によっ

てそれぞれメリット・デメリットはありますが、現在鉾立小学校の子どもたちが胸上小学校に通い、友達が増えたことなどにより、いろいろな意味でプラスの発言をしてくれていると私たちは思っております。

当然、通学距離が変わり様々なご負担をおかけしているということは重々承知しております。今後、後閑・山田・胸上・鉾立の4校が一緒になって新しい小学校を作るにあたっては、最大限環境変化に柔軟に対応できるように、人的支援であったり、配慮もしながら進めていきたいと思っております。地域の皆様からは地域から学校がなくなり、子どもがいなくなり寂しいということをよく聞きますが、この4つの小学校区の歴史や文化、それから誇りといったものは、学校が統合しても大切に教育の中で継承していきたいと思っております。この後、他地区での説明会を経て、総合的に一定のご理解いただけたということになれば、再編準備委員会の設置を進めていきたいと思っておりますので、皆さんどうかご理解いただきたいと思います。本日はありがとうございました。